



新型コロナウイルスのもとで"～わたしはこう過ごしてきました・こう過ごしています～"

〈vol.2〉

ロードバイクでどこにでも

会員 野間 自子 (38 期)

新型コロナウイルス感染防止の観点から当事務所では秘書は10時30分から16時30分までの変則勤務とし、また感染者数によってシフトを組み週に2, 3回の在宅勤務を取り入れている。弁護士については全員各人の自由裁量での出勤にしているが、昭和な私は紙でのファイルをやめることができず、緊急事態宣言中の秘書が誰も出勤しない期間もファイル整理のために適宜出勤していた。その間は、郵便物の受け取りや植物への水やり、提出書類の作成など普段秘書任せにしていた業務も自分で行い、皆が出勤している普通の状態がいかにありがたいものかを感じた。

もっとも悪いことだけではない。在宅での勤務体制を整えた私は明るいうちに事務所を出てもいいのだという当たり前のことに弁護士生活35年目にして漸く気が付き、生活を大きく変えた。

まず少なくとも週1回はロードバイクに乗るようになった。漫画「弱虫ペダル」に出てくる自転車だ。公共交通機関を使わず、歩くよりはるかに遠くまで行ける、withコロナにうってつけの乗り物だ。この夏だけでも世田谷区の自宅から奥多摩湖、山中湖、芦ノ湖（箱根駅伝ルート経由）、三浦半島など枚挙

にいとまがないほどたくさんの場所に、氷水を頭や腕にかけながら行ってみた。きつい斜面の道を登っている最中はとても苦しく、私は「どM」ではないかと自問するほどだが、木漏れ日の繊細な蔭、湧き水のおいしさ、風の心地よさなどは何物にも代えがたく、戻ってくるとあの苦しさを忘れて、すぐまた行きたくなるのだ。

次に、家でウォーキングマシンに乗りながらドラマを観ることはまった。友人に勧められた韓流歴史ドラマ「善徳女王」を見ていた時など永遠にマシンに乗っていたいとさえ思ったほどだ。

そして平日の昼間に商店街を歩く解放感。学生の頃を除いて今までなかったことだ。抜けるような青空の下、長閑な街を歩きながらwithコロナの生活もマイナス面だけではないなとしみじみ思うのだ。



新連載エッセイ「新型コロナウイルスのもとで」の執筆者募集

新連載「新型コロナウイルスのもとで～わたしはこう過ごしてきました・こう過ごしています～」の執筆者を募集しております。

◇仕事やプライベートについて

- ・緊急事態宣言中のこと（工夫したこと、普段と変わったことなど）
- ・新型コロナウイルス感染症の影響拡大のもとでの過ごし方、感じたこと、変化したこと、考えたこと、新たな楽しみ方など

◇文字数は600～750文字程度です。

ご応募は随時受け付けております。ご不明な点等がありましたら、お気軽に編集部までお問い合わせください。

*問い合わせ先：広報課 TEL：03-3581-2251/e-mail：libra@toben.or.jp